京都大学新聞
学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田
京都大学構内
（761）2054 直通
（751）2111（内線2571）
振替・京都2—3909
1部 100円

増える「チャリンコ」族を追う

近ごろ世の中に増えているもの。ファミコン。原理。コンピュエンス・ストアー。警察の大学介入。そして、教養部構内の自転車。今年になって、教養部で自転車の数が激増している。例年からは四月から音信で姿を消す自転車整理の職員が、今年に限って七月になっても教養部正門まえに姿を見せている。この背景には意外な事実があるのではないか。編集部は今回、自転車の増加という問題に光を当ててみた。

教養部で自転車が増えている——現場の声を聞いてみよう。

自転車置場の職員の話

「確かに自転車は増えていますね。置き場が狭いので、置き場ではないところに自転車をとめるの仕方ないですよ」

「自転車は年々増えて来ます。下宿が遠くなっているのでしょうね。でも、歩いてこれる人でも自転車を利用してるみたい」

通行途中の学生（理・4回生）

「ちょちょっと正めてある自転車は本当に目ざわりだ。けれど、置き場がないからやむをえないと思う」

通行途中の学生（法・2回生）

「通学の距離になりますね。とにかく、家から歩いて来れる人は自転車に乗るべきじゃないと思う。教養部に来る人が多すぎるということもありますね」

そもそも自転車置き場が狭いのだ——という意見が多い。教養部の「談合」はどの程なのだろうか。

敷地の問題

戦後の大幅な教育改革によって二部が新制度大学に衣替えされ、旧三高のキャンパスを使用して一般教養科目を実施する分校がおかれた。これが教養部の前身であり、その敷地面積は三高時代から現在に至るまでほとんど変化していない。旧三高生の総数は約千名。これに対して一九四九年の新制度大二期生は千五百一千九名。当然、教養部は足らず、一時期は宇治市内に分校を作って分離授業をしていたこともある。

その後吉田に統合されることになり、限られた土地に学生を押込むため、五九年から七六年にかけて現在ある校舎のほとんどが構築と増設された。八六年に「自転車の街・京都」だが、自転車増加の問題は、近ごろ教養部の教室のあいだで「最近の教養部の学生は、よく授業に出席するようだ」という話が時々聞かれている。

六、七月になっても授業に出席する学生数が減らない——というのは教官が一致する見方のようだ。

学生部の調査によると、自転車用の駐輪スペースの不足については、教養部の職員も「確かにないからねー」と困り顔。「九月になってもまだまだ自転車がふえているようだったら、調査も考えなくては」と述べている。

駐輪スペースの不足には、放置自転車の存在も深刻ではないだろう。スペース不足が一番割を食う教養部を例にとってみよう。

教養部では管理課が中心となり、二年に一度、放置自転車の調査を行っている。昨年九月に行った調査によると、放置自転車台数六千五百、放置バイク（三千八百台）であった。百六十五台という数が多いか少ないかはともかく、これだけの自転車がスペースを占めていたのは事実である。

ちなみにこの、放置自転車は、川端教養棟だけの撤廃はとの照合がされた後、処分される。（実際撤廃問題もあったようだ）

駐輪スペースの不足については、教養部の職員も「難しいからねー」と困り顔。「九月になってもまだまだ自転車がふえているようだったら、調査も考えなくては」と述べている。

近ごろ世の中に増えているもの。ファミコン。原理。コンピュエンス・ストアー。警察の大学介入。そして、教養部構内の自転車。今年になって、教養部で自転車の数が激増している。例年からは四月から音信で姿を消す自転車整理の職員が、今年に限って七月になっても教養部正門まえに姿を見せている。この背景には意外な事実があるのではないか。編集部は今回、自転車の増加という問題に光を当ててみた。

当局も対応に苦慮

教養部を「制圧」する自転車の群れ

駐輪スペースの不足には、放置自転車の存在も深刻ではないだろう。スペース不足が一番割を食う教養部を例にとってみよう。

教養部では管理課が中心となり、二年に一度、放置自転車の調査を行っている。昨年九月に行った調査によると、放置自転車台数六千五百、放置バイク（三千八百台）であった。百六十五台という数が多いか少ないかはともかく、これだけの自転車がスペースを占めていたのは事実である。

ちなみにこの、放置自転車は、川端教養棟だけの撤廃はとの照合がされた後、処分される。（実際撤廃問題もあったようだ）

駐輪スペースの不足については、教養部の職員も「難しいからねー」と困り顔。「九月になってもまだまだ自転車がふえているようだったら、調査も考えなくては」と述べている。

近ごろ世の中に増えているもの。ファミコン。原理。コンピュエンス・ストアー。警察の大学介入。そして、教養部構内の自転車。今年になって、教養部で自転車の数が激増している。例年からは四月から音信で姿を消す自転車整理の職員が、今年に限って七月になっても教養部正門まえに姿を見せている。この背景には意外な事実があるのではないか。編集部は今回、自転車の増加という問題に光を当ててみた。

教養部の「談合」はどの程なのだろうか。

敷地の問題

戦後の大幅な教育改革によって二部が新制度大学に衣替えされ、旧三高のキャンパスを使用して一般教養科目を実施する分校がおかれた。これが教養部の前身であり、その敷地面積は三高時代から現在に至るまでほとんど変化していない。旧三高生の総数は約千名。これに対して一九四九年の新制度大二期生は千五百一千九名。当然、教養部は足らず、一時期は宇治市内に分校を作って分離授業をしていたこともある。

その後吉田に統合されることになり、限られた土地に学生を押込むため、五九年から七六年にかけて現在ある校舎のほとんどが構築と増設された。八六年に「自転車の街・京都」だが、自転車増加の問題は、近ごろ教養部の教室のあいだで「最近の教養部の学生は、よく授業に出席するようだ」という話が時々聞かれている。

六、七月になっても授業に出席する学生数が減らない——というのは教官が一致する見方のようだ。

学生部の調査によると、自転車用の駐輪スペースの不足については、教養部の職員も「難しいからねー」と困り顔。「九月になってもまだまだ自転車がふえているようだったら、調査も考えなくては」と述べている。

「麻薬中毒患者が増えてる」

教養部・森毅教授

教養部・森毅教授は、最近の薬の低下を回って発表した教授会で、「最近の教養部の学生は、よく授業に出席するようだ」という話が時々聞かれている。

六、七月になっても授業に出席する学生数が減らない——という教官が一致する見方のようだ。

学生部の調査によると、自転車用の駐輪スペースの不足については、教養部の職員も「難しいからねー」と困り顔。「九月になってもまだまだ自転車がふえているようだったら、調査も考えなくては」と述べている。

総合事務機
㈱中村太洋堂
OA機器
オフィス家具
事務用品
京大構内（電話761—0077）

複眼時評

国際化について思う

白幡洋三郎

六月初め、小川信太郎さん逝去となった。といっても彼のを知る人は少ないだろう。小川さんは三重県の伊賀上野で、戦後三十数年にわたってアサガオ、それも変化咲の栽培をつづけられた方である。小川さんの仕事を初めて見に行ったのは、六年程前の夏のことだ。アサガオは朝咲にはしおれる、約束の日、眠い目をこすり早朝に起出して小川さん宅に着いた。そこで見せられたのは驚くべきアサガオだった。

変化咲のアサガオ、略して変化朝顔は劣性遺伝によってできる各種奇形の朝顔である。それはいわゆる朝顔の概念からは想像を絶するものだ。キキョウ、カーネーション、ナデシコ見まごうような花、カールしあるいは糸状の葉のような葉。何本も束ねられたように散状になっている茎。その様子は、筆舌に尽くしがたいという風に逃げるしかないので、特に私の表現力はその姿の不思議さは残念ながら読者に伝わらないだろう。

小川さんは春千万粒以上の種子を播くが、珍しい変化朝顔には劣性遺伝ないくつも関係しているため、確率計算上でも千粒に一つしか出ない種子のものがある。つまり千万粒播いてもわずか百株しか手に入られない。残り千万粒の種子を播く作業、全部が発芽することはない、発芽しても生命力の弱い変化朝顔は生育が遅い。これらを考えると、小川さんが毎年、変化朝顔を手に入れるのは、気の遠くなるような根気と情熱が要る。

大正の頃からこのような朝顔の性質が遺伝学的研究の格好の材料となり、日本の遺伝学を支えた。海外の注目も浴びた。しかし第二次大戦中に珍しい系統の変化朝顔が失われたうえ、その後国立の研究機関は産業的に価値あると認めないネコムギなどに精力を注いだ。変化朝顔は品種改良の手で細々と維持され、ついには小川さん一人が守る状態になってしまっていたのである。

朝顔は微かに遺伝子に接続平ようにはは見えない。しかしその遺伝子の不思議さは多大の無駄さを尽くしてはいない。また変化朝顔の遺伝子にどんな効力があるかも知れないのだが、一たん失われた遺伝子は二度と回復しない。小川さんが亡くなったことによって日本の遺伝学を支え、伝統園芸の地でもあった変化朝顔が今、絶えてしまうことも考えられる。

ところで変化朝顔は十九世紀の半ば宝暦の頃にはじまり、この世紀末から十九世紀初頭にかけて大流行した。大名、武士、町人あらゆる階層が夢中になり、ほかに類を見ない特殊なブームとなった。ちょうどヨーロッパもリンネの分類学体系ができあがる十八世紀半ばは蘭も博物学眼が隆盛になる。つまり日本もヨーロッパも自然科学に対しいろいろな姿勢をとりつつあったのである。

学問的にはどれも別個に独立しと起こった事例における花の行方は様々ところがちなのだが、じっさいにこの事実のは、針の穴のように細いパイプを通してであっても双方の事情は通じていた点である

報告　韓国民主化闘争と関西の動き

付・韓国民主化闘争の経過

6・26大阪 在日韓国人緊急闘争本部　総領事館へ抗議　機動隊、尹君を不当逮捕

六月二十六日、関西の在日韓国人の団体である韓人総・韓青同・韓学同で構成される「民主憲法争取―在日韓国人緊急闘争本部」は、韓国内で行われた「民主花平和大行進」と時を同じくして、大阪の韓国総領事館に対して抗議行動を行った。その緊天阪府警・南署はテモ隊が自国の出先機関たる領事館へ抗議活動をすることを妨害し、テモ隊が解散した後もビデオ・写真を撮り続けた。南鳥原前での総括会が終わりほとんどのマスコミが帰ると何も言わずに突然制服警官が金昌五・韓青同大阪委員長を後ろからはがいじめにし、百余名の機動隊員がこれに加勢した。金委員長は仲間に救出されたが、機動隊は団員十数名を取り囲み白昼堂々と集団で暴行を加え、暴行に抗議した関西学院大学生・韓青同の尹永洙君が逮捕された。拘留された尹君は写真撮影と指紋採取を拒否したが、その際警官約八名は尹君の腹部を殴打し蹴をねじ曲げ故意に足を引っかけて転ばし肋骨くらを折るなど、一回告訴上の学生きんには意味がないですし。大きなテーマは一定のままで、内容をかしずつ変えているんですが、毎年悩みます」と、一回告訴上の学生きんは意味がないですし。大きなテーマは一定のままで、内容をかしずつ変えているんですが、毎年悩みます」

六月一二六日後、韓青同京都府本部事務所に府警と法別に公安調査庁の法務事務官二名が一回も訪れている。また二十六日当日には「今日は絶対一人ひっぱらない」と言ってきたが、「今日は絶対一人ひっぱらないとランシーバーを持った警官が言っていた。これらのことは、今回の「事件」が政治弾圧・組織弾圧であることを示している。

冒頭の三団体は「在日韓国人が本国の出先機関である総領事館に自らの意志を直接表明しようとする行為は当然の民主的権利であり、日本警察がそれを実力で妨害することは断じて許されてはならない」「一連の弾圧攻撃は：日本政府・警察の許すことのできない政治弾圧である」「在日韓国人に対して民族的民主的権利を保障するか否かは、日本の民主主義の核心的な試金石である」との「事件」が政治弾圧・組織弾圧であることを示している。

（なお尹君は、その後、七月十日に保釈された）

6・24緊急集会　韓国民衆への連帯をアピール　京大時計台前で日韓研が

京大日韓研主催の「韓国民衆決起集会」が六月二四日、「戒厳令」布告―弾圧まで闘いぬきたい」とそれぞれアピールがされた。その後本部・教職員構内をデモし、一二時四十六分より集約集会に移った。

集約集会では部落解放研・金ケ崎の反原理闘争会粉砕の行動を貧困・「沖縄を考える有志」「尹正憲さんを激励した」と、また韓文研からは「全斗煥軍事独裁政権を打倒するまで闘いぬきたい」とそれぞれアピールがされた。その後本部・教職員構内をデモし、一二時四十六分より集約集会に移った。

集約集会では部落解放研・金ケ崎の反原理闘争会粉砕の行動を貧困・「沖縄を考える有志」「尹正憲さんを激励した」と、また韓文研からは「全斗煥軍事独裁政権を打倒するまで闘いぬきたい」とそれぞれアピールがされた。広島・軍都・軍需工業の都市であり朝鮮から強制連行・強制徴用された住人が爆心地にはスラムを形成した住んでいたのだ。彼らは爆風後も長崎と原爆後遺症で悩んでいる。被爆日韓国人の「合意」に中北が決まった。侵略戦争に一言にも三重にも配慮された彼らを見おさえとはできない」とのアピールの後、決議を集会参加者の総意で確認して集会は終った。

なお、決議では「思いつめられた軍事独裁、改憲論議再開などの政治情勢を打ち出しているが、その政権の本質が変わらないどころか、ますます強化されている。高島屋での抗議などで韓国の民衆の決起をはねとばしたとはいえないだろう」と述べている。昨日治療も一九八六年一一月「日韓の「合意」中北が決まった。侵略戦争に一言にも三重にも配慮された彼らを見おさえとはできない」とのアピールの後、決議を集会参加者の総意で確認して集会は終った。

なお、決議では「思いつめられた軍事独裁、改憲論議再開などの政治情勢を打ち出しているが、その政権の本質が変わらないどころか、ますます強化されている。高島屋での抗議などで韓国の民衆の決起をはねとばしたとはいえないだろう」と述べている。昨日治療も一九八六年一一月「日韓の「合意」中北が決まった。侵略戦争に一言にも三重にも配慮された彼らを見おさえとはできない」とのアピールの後、決議を集会参加者の総意で確認して集会は終った。

揺れ動く韓国情勢　―韓国民主化闘争の経過―

79年10　釜山、馬山民衆抗争
10・26　朴大統領暗殺
12・12　全斗煥軍事クーデター「ソウルの春」
80年
5・15　全斗煥によるクーデター　非常戒厳令
5・18→5・27　光州民衆蜂起　2000人市民虐殺
6・5　前田特使訪韓　全斗煥政権承認
7・13　金大中氏ら内乱陰謀などで起訴
9・17　金大中氏一審死刑判決
10・23　第5共和国憲法確定
12・9　光州米文化院放火事件
81年1・23　金大中氏死刑判決　終身刑に減刑
1・25　非常戒厳令解除
2・2　レーガン、全斗煥会談
2・25　新憲法に基づく大統領選実施　全斗煥当選
82年3・18　釜山アメリカ文化センター放火事件
83年3　学園自律化措置
11　レーガン訪韓
84年5　民主化推進協議会結成（共同議長金大中金泳三）
9　全斗煥訪日天皇と会談
85年2・12　総選挙新民党躍進
3・29　民主統一民衆運動連合（民統連）結成
4・17　全学連結成
5・23→26　全学連、三民闘委ソウル米文化センター籠城闘争
86年2・12　新民党1000万改憲署名運動開始
3　「民主化のための国民連絡機構」（民国連）結成
3→5　ソウル、釜山などで改憲大会
86年4・30　全斗煥「与野党合意すれば在任中にも改憲」
5・8　シュルツ米国務長官訪韓全斗煥支持を表明
5・21　民統連、文議長連行
6・21　新民党改憲特委設置に合意
9・20　中曽根訪韓（アジア大会出席）
10・28「愛学斗」結成一警察が包囲建国大に籠城
10・30　建国大籠城学生1500名連行
11　民統連、労働団体に解散命令
11・29　ソウル改憲大会　1万名決起　政権側は非常警戒令で封鎖
12・24　李敏雨構想（議員内閣制改憲）
87年1・14　ソウル大生朴鍾哲君拷問虐殺
1・20　内相、治安本部長更迭
2・7　朴君追悼国民大会
4・8　新民党分裂　金泳三　金大中氏新党結成を表明
4・13　全斗煥88ソウル五輪までの改憲論議見送りの特別談話発表
5・1　統一民主党結成
5・4　倉成外相訪韓「朝鮮半島三原則」発表
5・23「6・10　国民大会準備会」結成
5・27「護憲反対、民主憲法争取国民運動本部」結成
5・29　高麗大など各大学で「護憲撤廃、民主改憲争取学生連合」発足→6・10に全国的反政府ストへ結集呼びかける、29大学1万1千人決起
6・9　非常警戒令発動
6・10　民正党大会盧泰愚を大統領候補に全国22ヵ所で「国民大会」20万人決起　明洞聖堂に500名が籠城
6・18「催涙弾追放の日」ソウル5万釜山8万などの反政府デモ
6・24　全斗煥―金泳三会談「改憲論議再開」明示→決裂　平和大行進決行
6・25　全大統領4・13「特別談話」撤回表明
6・26　平和大行進37都市180万人参加
6・29　盧泰愚氏大統領直選制改憲を中心とする「宣言」発表

トピック　生協「卓上メモ」300回　―おかげさまで助かりました

内容に工夫をこらす　熱心な「卓上メモ」ファンも

「卓上メモ」を御存知だろうか。生協の食堂のテーブルにいつも置いてあって、食べ物や健康についての情報がコンパクトにまとめてある。あのメモである。作っているのは、生協の栄養士の友藤弘子さん。一七四年に着任してから、ずっと続けています。彼の食堂とは違い生協なんだから、ただ学生さんに食事を提供するだけでなく、自分自身で考えて食べられる手助けができればかと、そう考えたのがきっかけでした」。以来、最初は月一回、四年前から夏休みなどを除き週一回のペースで発行されていた。ワープロだけやイラストを他の人に頼むことはあるが、ほとんどが友藤さん一人で、作り続けている。「春は新入生向けに朝食をとろう、と呼びかけ、夏は夏バテ防止の工夫、冬になってからはカゼ対策と試験期のスタミナ維持、と季節ごとにやらなくてはならない企画はたくさんでいる。でも、前の年と、今と同じ内容でも、工夫をこらすことが大切だ」と、一回告訴上の学生きんは意味がないですし。大きなテーマは一定のままで、内容をかしずつ変えているんですが、毎年悩みます」

中央食堂をはじめとの食堂でも、片手ではスプーンでカレーを口に運びながら、もう二方の手で「卓上メモ」を持って読んでいる熱心なファンがよく見られる。そこまで熱烈でなくても、わりやすくて役立つ「卓上メモ」の読者は多い。ひょっとすると東大で一番多くの人が読むメディアではないだろうか。「眼がかしらく読まれているようです。『メモ』で何かを紹介すると、生協のその商品の売り上げがすぐに変化するようですから。また、食品添加物の問題クローズアップされたり、最近のいわゆる健康ブームで、学生さんの健康に対する関心が高くなってきているようです。『メモ』に載せたデータの数字が少し古かったり、誤認あるかもの一つの観しか紹介しなかったりすると、それを指摘する声が届きます。そんな時はもちろん、しまった、とも思いますが、やはりうれしいですね」

京大二回生の七割を占める千宿生のほとんどは、一人暮らしの一回生でもある。その食べることと健康についての関心としてはもちろん、それ以外の人にとってもかを紹介すると、生協のその商品の売り上げがすぐに変化するようですから。また、食品添加物の問題クローズアップされたり、最近のいわゆる健康ブームで、学生さんの健康に対する関心が高くなってきているようです。『メモ』に載せたデータの数字が少し古かったり、誤認あるかもの一つの観しか紹介しなかったりすると、それを指摘する声が届きます。そんな時はもちろん、しまった、とも思いますが、やはりうれしいですね」

京大二回生の七割を占める千宿生のほとんどは、一人暮らしの一回生でもある。その食べることと健康についての関心としてはもちろん、それ以外の人にとってもかを紹介すると、生協のその商品の売り上げがすぐに変化するようですから。また、食品添加物の問題クローズアップされたり、最近のいわゆる健康ブームで、学生さんの健康に対する関心が高くなってきているようです。『メモ』に載せたデータの数字が少し古かったり、誤認あるかもの一つの観

圧殺を目論む者には労働者の暴力で対抗せよ

6・28日雇全協　金町戦勝利・天皇訪沖阻止　東京・山谷「総決起集会」などを訴える

全国日雇労働組合協議会（全協）の「船本州治追悼二万年・日雇全協戦争成五周年・金町戦勝利」今秋天皇訪沖阻止！六・二八日雇全協総決起集会」が六月二八日に東京山谷の玉姫公園で行われた。参加者は警察発表で四百人を数えた。

機動隊や私服・制服の警官、金町の機動隊員は玉姫公園に集ち勝つ為、ナチス様・金属バット等で武装し、わが戦闘団既に襲撃を企図してきた」「六月二十日、午前一時過ぎ、福祉センター横に車で乗りつけ、（山谷）争議団事務所に向けて火炎ビンを投げつけるという攻撃に出てきた」と現状が述べられた。そして「右翼暴力団（〈金町一家〉）が日雇労組の路線の圧殺者として、組織潰滅を目論んで、なぎ出しの反革命暴力を行使してきている山谷の状況下において、対ファシスト戦下の労働運動としての第一の任務は、敵に打撃を与えるとともに、部落出身者、「障害」者、女性、在日アジア人を排除した、中・上級労働者の既得権擁護の運動だった。また、経営者側も、左翼思想は排除するとして、極端な右翼思想も持たないい、イデオロギー抜きで経済的利害（賃金・待遇等）だけを考える労働組合を好んでいたので、労使間で慣れ合い妥協関係が成立していた。

しかし、八〇年代に入ると、産業構造が大きく変革した。日本国内での三大産業（第一次産業、第二次産業）が衰退し、サービス産業（第三次産業）が急増し増加してきた。そして、それに伴い労働内容の多様化が進み、リスクが多い長期雇用がなくなり、派遣労働者やパートの増加が目立ってきた。つまり、企業の内にいる労働者が減少し、雇用状態が不安定な労働者が増えた。その結果、企業間に行われていた労働運動は無力化した。

このような状況は、裏を返せば、企業の枠を超えた協級的な運動が可能となったことを意味する。この連帯の中には、従来の運動から排除されていた寄せ場の労働者等も当然含まれる。今までにない強力な運動ができ得るのだ。

このことは、国家・資本側も充分察知しており、新しい弾圧（例えば労働組合法の改悪）をかけようとしてくる。この弾圧で表面にでてきたものが、右翼テロリズムの台頭である。この弾圧で表面にでてきたものが、右翼テロリズムの台頭である。そして、日本国民で国家主義をしきりとうたってきている。「一刀両断」「天皇陛下万歳」「天皇陛下バンザイ」「天皇陛下万歳」を言ってから、「日本国民は、「天皇陛下万歳」を言ってから、「日本国民は、「天皇陛下万歳」を言ってから、「日本国民は、

講演録

M・ライアン
抵抗と支配―アウトノミアと脱構築戦略（下）

五月十六日に開催されたM・ライアン氏の講演会「抵抗と支配―アウトノミアと脱構築戦略」の講演録の後編を今回掲載する。前回、ライアン氏はアウトノミアとポスト・構造主義の関係について説明した。すなわちアウトノミア運動は、労働がすでに資本を動員させるだけの力を獲得していること（例えば労働サボタージュ）に着目し、現段階での労働者層の権力獲得をめざしたものであることをライアン氏は語った。

そしてアウトノミアとポスト・構造主義が共に非連続性を強調しており、資本が社会に隠そうとする統一性を破壊する可能性を秘めている点で両者は結びつくことを示唆した。この後、意味における、資産に権力の抑圧を及ぼしている資産として米国は「自由」、日本は「天皇」があることを挙げて、前回は終っている。

再定義される言葉の意味

さて、次に、「脱構築」について話しましょう。脱構築とは、一つの哲学です。脱構築における主要なポイントは、言葉や概念にはいかなる統合された意味も存在しない、ということです。こうした考えは、ある歴史的な結論をもたらします。たとえば、「自由」というような重要な社会的な言葉も、実は、決定的な、固定された意味を本質的にはもっていない、ということです。つまり、言葉の意味というものは、常に再コード化されるのです。言葉というものは、力関係によって規定されているといってもいいでしょう。この意味というものは、社会において、ある言葉に、いかなる支配的な意味を与えるかという問題は、まさに歴史闘争の対象であり、その理論的指導者たちが、言葉を英米圏に紹介したことも知られる。

マイケル・ライアン
一九五一年生。英米文学者。日本では著書『ポリティクスとリベラルクス』や七〇年代にイタリアで展開されたアウトノミア運動・その理論的指導者ネグリを英米圏に紹介したことで知られる。

言葉の支配的な意味の再コード化は、権力に対する抵抗の闘いです。この闘いは、言葉もつイデオロギー的意味を二重に否定します。つまり、自然なものであるとともに、絶対的なものであるという、言葉の意味のもつ装い、を、拒否するのです。こうして、いまも、支配的な社会的意味は、存続しています。しかし、もはや権力を正当化しなくなっています。概念・意味を変化させるということは、社会的リアリティを変化させるということです。言葉の意味は、歴史的な支配的な意味の再コード化は、権力によって支えられているのです。この社会的意味は、存続しています。この分離・対立の背後には、たくさんのイデオロギー的価値が存在しています。なかでも、もっとも重要なものとして、資本と文化の区別というものがあります。女たちは、自然の方に帰属し、男性は、文化の側に帰属します。

言葉の意味の再コード化

権力の正当化の根拠を奪う闘い

文化も政治闘争の場

さて、最後に、アウトノミアとポストモダニズムの二つの運動が、いかに言葉を含蓄するかということをめぐって、二、三話したいと思います。

アウトノミアは、共産主義という言葉にオルターナティーヴな意味を与えようとした点で、脱構築を実行しました。彼らは、共産主義に、既成の共産主義者が与えていた意味を超えて、社会的富の分配者による直接的充当という意味を与えようとしました。だからこそ、「アウトノミアは、脱構築を正します。

脱構築ということは、伝統的なイデオロギー的な意味を変革することなのです。もちろん、イデオロギー的意味に攻撃をしかけるということは、権力そのものを攻撃する、ということです。

フェミニズムの問題についてお話しましょう。合衆国において、女たちの生活は、公的な生活と私的な生活に分離・対立させられています。公的生活は、「男性的」な意味に、いかなる新しい意味をあたえるか、ということです。もちろん、イデオロギー的意味を変革することのできるのです。

合衆国の文化理論において、こうした視点から、我々は、サブ・カルチャーの問題を議論しています。つまり、「パンク」や「ブラック」のサブ・カルチャーは、言語学的な意味の支配的な意味の再コード化されています。女たちの従属性は、この分離・対立の正当化によって支えられているのです。この分離・対立において、公的な生活は男たちに、私的な生活はたちに帰属させられています。公的生活は、政治的・経済的活動によって構成されて、私的な生活は、育児や男たちへ（女たち）の世話といった家事によって構成されています。この分離・対立の背後には、義に、既成の共産主義者が与えていた意味を超えて、社会的富の分配者による直接的充当という意味を与えようとした点で、脱構築を実行しました。彼らは、共産主義の理論家が与えていた意味を超えて、社会的富の領域を、文化と社会的意味の領域にまで拡大しました。

ロギー的な意味に、いかなる新しい意味をあたえるか、ということです。もちろん、イデオロギー的意味に攻撃をしかけるということは、伝統的なイデオロギー的意味を変革することのできるのです。

人工的産物が正当性などもってはいないのだ、と主張します。このような視点から、我々は、サブ・カルチャーの問題を議論しています。つまり、「パンク」や「ブラック」のサブ・カルチャーは、言語学的な意味の再コード化されています。女たちの従属性は、この分離・対立の正当化によって支えられているのです。この分離・対立において、公的な生活は男たちに、私的な生活はたちに帰属させられています。公的生活は、政治的・経済的活動によって構成されて、私的な生活は、育児や男たちへ（女たち）の世話といった家事によって構成されています。この分離・対立の背後には、たくさんのイデオロギー的価値が存在しています。なかでも、もっとも重要なものとして、資本と文化の区別というものがあります。女たちは、自然の方に帰属し、男性は、文化の側に帰属します。

脱構築ということは、伝統的なイデオロギー的な意味を変革することのできるのです。

不屈の民 ウチナンチュー

連載 第4回

時間かせぎの捨石作戦

非惨を極めた沖縄戦

米軍の上陸

一九四五年三月二十三日、グラマンの編隊が那覇港を不法飛行場に出現し、黒煙と爆撃船の残骸を残して去っていった。この日から「日米最後の地上戦」と言われる沖縄戦が始まった。

米軍がまず上陸を開始したのは慶良間諸島であった。艦船の停泊地と補給基地を沖縄本島戦の前に築くことが目的であった。慶良間諸島には日本軍の戦闘部隊は配備されておらず、上陸隊はほとんど無傷で島を占領した。住民は無抵抗な風貌をした米軍に驚き、友軍に保護を求めた。慶良間諸島では「住民は男女を問わず軍の戦闘に協力し、老人子どもは忠魂碑前に集合、全員自決せよ」との命令のもと、住民集団自決がなされた。慶良間諸島全体で約五百七十名が集団自決して殺害されたのが約十五名。沖縄戦は初から住民集団自決を孕んでいた。

沖縄本島に米軍が上陸を開始したのは四月一日。上陸地点は読谷村から北谷村にかけての中部西海岸であった。日本軍からの反撃がまったくない中、艦艇約二百隻の後援射撃をうけて上陸隊は無血上陸した。沖縄本島の中央を縦に貫

「最後迄敢闘セヨ」

中部戦線の敗北によって軍司令部は「われ軍の戦力は消耗しつくした」と絶叫した。しかし平坦戦争での兵力損耗の脆性であった。

守備軍司令部壕のある摩文仁丘米軍に襲取されたのが、六月二十三日日本軍の残存戦況は

日、公式に沖縄戦闘は終結され非常に悲い。当時県人口は約六十万人であったから、実に四人のうち一人が死んだことになる。「生キテ虜ノ辱ヲ受ケズ」という戦陣訓が住民にもたらされていた。

「捕虜にされた住民は米軍の殺ばつな攻撃隊の中に追い込まれて虐殺され、女は犯すかし自殺にかり出された。この間に米軍はブルドーザを動員し、収容所以外の広大な土地を墓地につくり変えていった。

こうして沖縄戦では日本軍の正規軍人が約七万六千人、沖縄民衆が約九万四千人、米軍が約

一万三千人の死者を出した。まだ六月六日、牛島司令官と長参謀長は摩文仁丘の洞窟で自決した。

本土決戦のための時間かせぎのため、玉砕の方針はとらず「努めて多くの敵兵力を牽制拘束する持久戦」を南部で行われた。

南部では地元の住民をはじめ、中部、首里などから避難してきた十数万の人々でふくれていた日本軍は住民を洞窟や墓の中から銃剣、軍刀で追い出した。住民のもっていたはだしの食糧をも奪った。このような中で起きた南部戦は、物資と力部隊約六万四千名が戦死、米軍も戦死傷者三万六千名にのぼった。これは米軍にとっては大

した米軍は、南北二方向に分かれて進撃していった。

中部戦線では文字通り一進一退の白兵戦が行われた。物資・火力ではるかに優れた米軍とはいえ、洞窟や谷地など地形を利用して、地下からねらってくる日本軍に苦戦した。嘉数高地、安里二高地、前田高地などの丘の中から銃剣、軍刀で追い出され、米軍は一カ月で約二キロしか南進できなかった。五月中旬には戦線は終ったが、日本軍は主

は玉砕し、牛島司令官と長参謀長は摩文仁丘の洞窟で自決した。まだ六月六日、沖縄戦の終了宣言をしたのは七月二

高い住民死亡率

なぜこんなにも多くの死者が出たのであろうか。沖縄戦の死者の中では一般住民の死亡率が非常に高い。当時県人口は約六十万人であったから、実に四人のうち一人が死んだことになる。「生キテ虜ノ辱ヲ受ケズ」という戦陣訓が住民にもたらされていた。アメリカ軍の捕虜になると二男は去勢され、女は犯すかし自殺にかり出された。この間に米軍はブルドーザを動員し、収容所以外の広大な土地を墓地につくり変えていった。

こうして沖縄戦では日本軍の正規軍人が約七万六千人、沖縄民衆が約九万四千人、米軍が約

者の中では一般住民の死亡率が非常に高い。当時県人口は約六十万人であったから、実に四人のうち一人が死んだことになる。「生キテ虜ノ辱ヲ受ケズ」という戦陣訓が住民にもたらされていた。アメリカ軍の捕虜になると二男は去勢され、女は犯すかし自殺にかり出された。また「投降をつのらせる」という米軍の連絡が出されたように、日本軍からみれば沖縄人は「裏切り」が欠けていると

すにヒッコもそんびん棒をかついでいたために「棒兵隊」と呼ばれていた防衛隊に見られるように貧弱であった。ただ精神的なものに、あるいは味方の銃剣に突き動かされて突撃していった

解決しなくては敗戦すればもう一つ重大な問題があり、それをポツダム宣言を受け入れることができなかったのである。それは天皇制の存続である。これを確実に敗戦条件とするためには、時間をかせいで交渉を有利にせねばならなかった。そのため沖縄戦は何よりも「時間かせぎ」の捨石作戦」としての意味が

しても、もっといろいろ戦術を考えるべきだったのではないか、という疑問と住民の「犠牲」

国体のための沖縄戦

この沖縄戦にはどのような意味があったのだろうか。

四十五年の五月十一日の最高戦争指導者会議で米内外相は「国体護持」のためには沖縄、小笠原、樺太、北千島を敵に渡

体が倒れようとしている現実で

した。私達は、「日本一の赤字線」

対する京大の会の学生をはじめと

なり、矛盾を抱いつつも、全国調査と

冊のパンフレット「どりもせ・

我らのシルクロード」として刊行

するはこびとなりました。

私達が、今回の国鉄キャラバン

国民鉄キャラバンを行いました。

北は、北海道から、南は、九州・

沖縄まで、文字通り、鉄路の続く

ところどこまでも、分割・民営の

私達、国鉄の分割・民営化に反

矛盾を抱いつつも、全国調査を

冊のパンフレット「どりもせ・

我らのシルクロード」として刊行

するはこびとなりました。

私達が、今回の国鉄キャラバン

国民鉄キャラバンを行いました。

北は、北海道から、南は、九州・

沖縄まで、文字通り、鉄路の続く

ところどこまでも、分割・民営の

投稿

国鉄キャラバン報告

国鉄分割・民営化に反対する京大の会

第一に、ローカル線の問題です。国鉄赤字の原因のヤリ玉に上げられ、次々と廃止されようとしているローカル線。しかし、その実状は、国鉄赤字二千数兆円のうちわずか百億円、山手線等の黒字で埋め合わせる額だそうです。ローカル線廃止のおかしさを感じつつキャラバンに出発しました。

ローカル線廃止のもう重大な意味を痛感させられました。ローカル線廃止が予定されるとの地域に行っても、それが単なるローカル線廃止にとどまらず、その町全体が消えようとしている現実である。

第二に、安全性の問題です。現在国鉄職場において、「余剰人員」が叫ばれ、ベテランの職員が職場を追われ、「余剰」とは裏腹に、安全性だけきえとなわれているのが現実でした。長年、新幹線保線業務に従事し、現在は、「余剰人員」の名の下、JR直営売店で働かされているある職員さんは、「保線職員が大幅に削減され、十分な保線業務が行えなくなっている。新幹線なんどこわくて乗れません」とその実状を訴え、利用する私達にとって、命にかかわる重大な問題だと生じていると感じました。

第三に、国鉄分割・民営化の問題です。

第一に、安全性の問題です。現在国鉄職場において、「余剰人員」が叫ばれ、ベテランの職員が職場を追われ、「余剰」とは裏腹に、安全性だけきえとなわれているのが現実でした。長年、新幹線保線業務に従事し、現在は、「余剰人員」の名の下、JR直営売店で働かされているある職員さんは、「保線職員が大幅に削減され、十分な保線業務が行えなくなっている。新幹線なんどこわくて乗れません」とその実状を訴え、利用する私達にとって、命にかかわる重大な問題だと生じていると感じました。

第二に、ローカル線の問題です。国鉄赤字の原因のヤリ玉に上げられ、次々と廃止されようとしているローカル線。しかし、その実状は、国鉄赤字二千数兆円のうちわずか百億円、山手線等の黒字で埋め合わせる額だそうです。ローカル線廃止のおかしさを感じつつキャラバンに出発しました。

ローカル線廃止のもう重大な意味を痛感させられました。ローカル線廃止が予定されるとの地域に行っても、それが単なるローカル線廃止にとどまらず、その町全体が消えようとしている現実である。

第三に、国鉄分割・民営化の問題です。

第一に、安全性の問題です。現在国鉄職場において、「余剰人員」が叫ばれ、ベテランの職員が職場を追われ、「余剰」とは裏腹に、安全性だけきえとなわれているのが現実でした。長年、新幹線保線業務に従事し、現在は、「余剰人員」の名の下、JR直営売店で働かされているある職員さんは、「保線職員が大幅に削減され、十分な保線業務が行えなくなっている。新幹線なんどこわくて乗れません」とその実状を訴え、利用する私達にとって、命にかかわる重大な問題だと生じていると感じました。

第二に、ローカル線の問題です。国鉄赤字の原因のヤリ玉に上げられ、次々と廃止されようとしているローカル線。しかし、その実状は、国鉄赤字二千数兆円のうちわずか百億円、山手線等の黒字で埋め合わせる額だそうです。ローカル線廃止のおかしさを感じつつキャラバンに出発しました。

ローカル線廃止のもう重大な意味を痛感させられました。ローカル線廃止が予定されるとの地域に行っても、それが単なるローカル線廃止にとどまらず、その町全体が消えようとしている現実である。

第三に、国鉄分割・民営化の問題です。

差別待遇を受ける国労組合員

現場では安全性を軽視

現在、国鉄職員は、「分割・民営」の実態を一人でも多くの人に知っていただきたいと思います。そのために、是非、多くの皆さんに、「とりもどせ！我らのシルクロード」を購読していただきたいと思います。（お求めは、オテツサ書房、京大生協書籍部、最寄りの会員まで）。

京大交響楽団が行った定期演奏会がCD録音出来九月一長調。CDは非売品で、二百七十枚を製作し、東海は無優秀選手に選ばれた。

田辺育長、準出協力を表明

六月二十三日、原田田辺町長は町議会で「京大の将来計画検討委の出した第三次答申は、研究・教育の基礎的施設をつくることを目指すものでないへんよい思う」と京大の田辺町進出構想を評価、

六月二十九日、西宮球場で開かれたアメフトの関西学生オールスター戦は関西選抜が関東選抜を20—14で降し連破を「11」で止めた。東大の参加選手では東海がTD、若林がFGを決めるなどの活躍。東海は無優秀選手に選ばれた。

交響楽団、CDを自主作成

今年一月、七十周年をむかえた

工学部公開講座

工学と生活

宇宙の始まりと終わり

宇宙はどうなっているのか。宇宙の始まり、そして終わりはあるのか。宇宙をどこまでも進むとどうなるのか。このような疑問を抱くのは自然なことだと思う。

宇宙に関する神話は世界各地にみられるが、ギリシアでは単なる空想から一歩進み天動説による蓋本的な宇宙論が成立した。よく知られているように、後に天動説は、コペルニクスの地動説によって取って代わられるのだが、彼の地動説では太陽が宇宙の中心とされていて、現代から見るとそれでも宇宙の認識が狭い。太陽はどこにでもある一つの恒星でしかないというブルーノ、そしてガリレイ、ケプラー、ニュートンを経て、アインシュタインの相対論に基づく現代の宇宙論ができた。

宇宙論の進歩は、まるで、自分と母親しか知らなかった赤ん坊が家族、社会、国、世界…と認識の範囲を広げて、自分が数多くの人間の一人でしかないことを知っていくのに似ている。換言すれば、宇宙論の進歩とは、宇宙の中心が我々から遠ざかってゆく歴史でもあったのだ。

現在、宇宙がものすごいスピードで膨張していることが、観測的に確かめられている。これは、昔になるほど宇宙が小さく、高温高密度だったことを意味し、百五十億年ほど昔には、宇宙は点だった。

松田卓也

航空工学科助教授

果てしなき謎—宇宙

「膨張し続ける」とも限らない?!

では、宇宙はこれからどうなるのか。まず、膨張には限界があり、ある時点から収縮が始まるという説がある。収縮してゆけば、当然最後には全宇宙は一点になってしまう。もっとも、それが起こるとしても何兆年も先だから、今、我々が思い煩う必要はない。なお、収縮している宇宙では、光が来た方から遠ざかへ進むと、時間が逆流するとかいわれるが、よくわかっていない。

一方、宇宙はどこまでも広がり続けるという説もある。この場合、世界は永遠に安泰かというとそうではない。十の三十四乗年ほど時間がたつと、物質世界の重要な構成要素である陽子が崩壊してしまう。その後、電子と陽子が結びついて、直径百億光年の一種の原子から成る単純な生命を想像する研究者もいる。

限り無く膨らみ続けるのか、また縮んでしまうのか、それは宇宙の平均密度によって決まる。だがこの密度を測定するのは難しく、次々に異なるデータが出て、宇宙の結末の予想は一転三転してきた。現在、平均密度はある臨界値より小さく、宇宙は膨張し続けるという説のだがわが有勢だが、将来変わる可能性は十分ある。宇宙の歴史は複雑に進歩してきたのだが、未知なることは限りない。

こんな宇宙のことを考えても意味がないからあるべきしかしない、しかし、科学が教っているのは人間生活と校立っていう面だけではない。ちょうど短距離走者が八間の走る世界を眺っているように、科学は人間の想像力の限界を越っているのである。

（文責　編集部）

教養部に点字ブロック設置

広瀬さん「かなり安心して歩けるようになった」

今年の四月に大学に左目の不自由な広瀬さんのために、六月下旬より教養部構内に、点字ブロックが取り付けられた。設置場所は、T字路、中庭にある所、図書館前、E号館の前である。

四月以来、教養部当局は広瀬さんのために、教養部正門前等での自転車整理や、教科書のテープ吹き込み等を行ってきた。教科書の吹き込みは、授業を通じて学生を募

ったりして行われた。一般教育科目を吹き込んだが、集まった学生等は概ね快く引き受けてくれたそうだ。今回の点字ブロック設置も、さて、肝心の効果の方だが、広瀬さんによると、「点字ブロックが有られる前の教養構内に慣れてしまったので、点字ブロックでも歩けないことはない。しかし、点字ブロックができて、確かに

▲ ▼設置された点字ブロック（T字路と中庭入り口）

今後、広瀬さんが関して問題になりそうなのは、試験である。なるべく他と同じ条件で受けたい、という本人の希望を満たせるような方法を、教養部と教官が相談して決めることになっている。

無視される韓国・朝鮮人被爆者

「もうひとつのヒロシマ」……これまで、ヒロシマ・ナガサキの悲劇が語られるときでも、日本による強制連行されて原爆にあいながら、戦後は「日本人でない」として何の補償も受けずに放り出された数万人の被爆朝鮮人の存在は、ほとんど無視されてきた。「日本—唯一の被爆国」という神話は、いまだに根強く信じられている。これは、反戦・反核を唱える多くの運動体でさえ例外ではない。

被爆当時の広島・長崎は日本有数の軍事都市であり、そこでは日夜、長期戦争のための兵器・軍需製品が生産されていた。立ち並ぶ工場では、強制連行されてきた多数の朝鮮人が酷使されていた。その結果、広島・長崎で被爆した者の二一%、実に九人に一人が朝鮮人であったのである。彼らは文字通り「日本による被爆者」であった。

▶ 被爆者は今も放射能のために寝たきりの生活を強いられている

「もうひとつのヒロシマ」朝鮮人被爆者の証言」（『季刊雑誌』）、「『原爆』と『朝鮮』」（『三一新書』）などがある。広島の原爆スラムに同じ場所で被爆者を訪ね歩き、彼らの被爆体験と生活、思いを記録する。

被爆当時の広島は、人口約三十万人のうち、約二万人が朝鮮人であったと言われている。そこでは日本人と朝鮮人の間に、どれほどの差別があったのか、どれほどの人が被爆したのか、どれほどの人が死んだのか、どれほどの人が生き残ったのか、どれほどの人が今日まで生き続けているのか、どれほどの人が今日まで生き続けているのか、どれほどの人が今日まで生き続けている